

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

「こわいをして、へいわがわかった」
—おきなわいれい ひ —
—沖繩慰霊の日—
ちいろば会理事 木のわきえつろう 木ノ脇悦郎

6月23日は、第二次世界大戦の末期に沖繩が米軍の猛攻撃を受け、住民の4人に1人が亡くなったという悲しく、つらい想いをみんなで共有し、戦争で亡くなった人々の霊を慰める沖繩慰霊の日でした。梅雨が明けた会場の平和祈念公園(糸満市摩文仁の丘)は、ここで戦争の悲劇があったことを忘れそうになるほど太陽が燦燦と照り輝き、青い海と緑の芝生がまぶしい美しいたたずまいを見せていました。実は、この美しい景色の中で「鉄の暴風」と呼ばれるような軍艦からの猛攻撃の中を人々は逃げまどい、日本軍の命令によって泣き叫ぶ赤ん坊を母親が殺し、家族同士で殺しあうという想像を絶する悲劇が生じたのです。

このような悲劇を多く生み出す戦争を二度と起こさず、世界が平和を大切に守り続けることをも願って、この式典が毎年行われているのです。ですから、この平和祈念公園にある亡くなった方々の名前を刻んだ「平和の礎」は敵味方、国籍や当時の立場を問わずみんなの名前が刻まれているのです。現在その数は24万1632名にも達しているといわれます。しかも、沖繩のあの戦争で亡くなった方のうちまだ名前もわからない人、遺骨の見つかっていない人も沢山ありますし、名前についていなかった赤ん坊もいて「。。。の子」と記されている方もあります。私たちの日常ではとても考えられないことが戦争の中では当たり前のように平然と生じていくのです。

今年の式典の中でとても印象的であったのは、沖繩県知事玉城デニー氏の平和宣言に続いて平和の詩を朗読した小学二年生徳元穂菜さんの「こわいをして、へいわがわかった」という詩の内容と穂菜ちゃんのしっかりした朗読でした。その内容は新聞にも掲載されましたから、是非読んでいただきたいと思います。解説によりますと、穂菜ちゃんがこの詩を書いたのは宜野湾市にある佐喜真美術館の「沖繩戦の図」(丸木位里、俊夫妻による)を家族とともに鑑賞した時というのでした。この絵は本当に戦争の恐ろしさ、非情さ、残酷さを実感させてくれるもので、壁一面の大きな絵画です。小学二年生の女の子にとっては、想像もできない恐ろしいことが戦争では起こるのだと実感したのでしょう。怖くなってお母さんにしがみつき、その温かさを感じてこれが平和かなと感じたといえます。怖いということを知って、怖さのない平和を知ることを感じる子供の感性を持ちたいものです。

最近の世界の情勢を見渡すと、いつどこで戦争が起こっても不思議ではありません。そのため、日本の国内では政府もある野党も国を戦争から守るために十分な備えをしよう、そのために防衛のための軍事予算を今の倍に増やそうという声が高まっています。怖い戦争をもっと怖いものにする軍備をいくらしても、周辺の国ももっと多くの軍備をするだけです。「こわいをして、へいわがわかった」という感性を持つことが今ほど求められていることはありません。聖書は「子供のようにならなければ、神の国にはいることはできない」といっていますし、「平和を創り出す者は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」と言っています。沖繩慰霊の日に与えられたとても大事な感想でした。

支援の空洞化

ちいろば会事務長 和田 泰子

人材不足が続いて2年以上が経過しました。今年度に入って少し落ち着いてきたかなとは思いますが、その中で次に課題だと考えるのは支援の空洞化です。

支援者の数は揃いつつあるものの、これまでちいろば会で実践してきた支援が継続できていないと感じるのです。ちいろば会では、利用者みなさんが自分らしく活躍できるように潜在的な力を引き出し、その力を伸ばしてもらえような支援を心掛けています。しかし、支援者が入れ替わることでその支援が停滞してしまうことがあるのです。

最近、グループホームの支援に入る機会があるのですが、利用者みなさんが自分で出来ていたことが出来なくなっている場面が多くあり、支援が継続されていないことを痛感しました。これまで、職員が入職するとベテラン職員と一緒に入り、それぞれの利用者に対する支援の目的、障害程度等詳しく説明はしていますが伝わりきっていない、また職員の入れ替わりが複数回重なってくると伝えたとつもりになっているが実際には伝えられていないこともあります。そして、入職してくる者の多くは、「利用者さんのお世話をしたい」、「困っている人の役に立ちたい」という思いが強く、利用者の過度な依存を引き出してしまい、支援の本質が理解できない職員もいます。その度に、管理者の富田さんからは「利用者みなさんは、職員が学び、支援者として成長するための教材ではない。職員が入れ替わる度に支援が滞ってしまい、その人の一度きりの人生を何度となくゼロに戻してしまう事ほど失礼なことはない。」と話されます。本当にその通りで私たち支援者は利用者みなさんの一度きりの人生に関わらせてもらっていること、そして支援者が入れ替わる度に何度も同じことをやらされ続け、新たに経験できるチャンスまで奪ってしまうことがあるのだと理解しなければなりません。

だからこそ、職員は話しやすい者同士で利用者支援について話すのではなく、経験豊富な先輩職員、上司に日々の自分が行っている支援について相談することを怠ってはいけません。同じような経験しかしていない者同士で話していると、どうしても同じ視点から物事を見てしまいがちになります。しかし、先輩職員は自分が知らない利用者の人生を知っているので、過去の自分たちの失敗も含めて的確なアドバイスができたり、一緒に悩んだりしてくれるのです。私も今となっては支援の現場を離れてしまい、他の職員の支援に対して口を出すことは控える方が良いのかとも思ったのですが、やはり利用者支援を経験してきた者として、グループホームの経験浅い職員に対して少しでも参考になればという気持ちから何度か話をさせてもらいました。そして、これからも気づいたことがあれば伝えていこうと思います。

私たち支援者が利用者みなさんと向き合う時間にリハーサルはなく全てが本番です。今一度、支援の目的、支援者の存在する意味を考える必要があるのではないのでしょうか。

— ぼくも わたしも みんなが^{しゅやく}主役 —

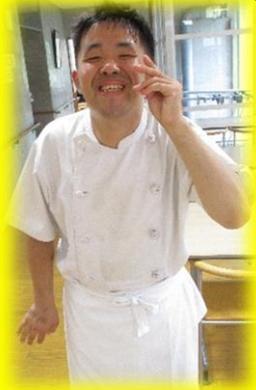
- 質問① 名前と年齢は？
 質問② 家族にまつわるエピソードは？
 質問③ 学校、就労時代のエピソードは？
 質問④ 最近気になっていること、興味があることは？

① 梶原拓馬 37歳です。

② 普段はグループホームにぬふあ星に暮らしています。2週間に1回お母さんとお兄ちゃんの住む自宅に帰ります。自宅では犬のロビン猫のもえ、クッキーもいます。お母さんと2021年12月に近鉄特急「火の鳥」の最前列で名古屋まで行きました。景色もシートの座り心地も最高でした。

③ 中学は大淀養護学校に行っていました。1年間バス通学したけど、お母さんと担任の先生が勧めてくれて電車通学を5年間しました。電車に乗るのが楽しくて、寝過ごすことも何回かありました。

④ コロナが流行るまではお母さんと朝から電車に乗って1日外出したりしてたけど、今は近くしか行ってません。近鉄特急「あおによし号」に乗って京都まで行きたいです。



① 森川佳紀です。41歳です。

② 父と母と3人で暮らしています。弟は近くに住んでいて僕の欲しいCDやDVDを買う時、ネット注文を手伝ってくれ助かっています。お礼にスイーツをあげたりします。いつも仲良くしてくれてありがとう。

③ 上牧第二小学校、上牧第二中学校、奈良県立高等養護学校。
 (楽しかったこと) 高校の時、校内マラソン大会で1位になったことが嬉しかったです。
 (つらかったこと) 小学校の時、交通事故に遭い入院・自宅安静・通院と、いろいろな病院・いろいろな診療科へ行った9ヶ月間。痛かったし、本当にたいへんでした。

④ 休日にはCDやDVDを鑑賞しています。これからもJ-ポップやロックバンドの音楽を、いろいろと聴きたいです。また、プロ野球やサッカー日本代表が好きでテレビ中継をよく観ます。プロ野球交流戦が楽しかった。父が阪神ファンで僕が西武ファンなので阪神対西武戦は引き分けになってほしかったです。サッカーワールドカップも今から楽しみです。ネット配信では観られないので、テレビ中継で日本を応援したいです！



2021年度の主な事業報告

社会福祉法人 ちいろば会

【事業報告】

〈ちいろば園〉(生活介護) 定員58名、年間稼働日数249日

(新型コロナウイルス感染者発生による在宅支援日含む)

① 利用者の状況

登録者数50名(3月末現在) 年度途中退所1名

一日平均利用 45.7名 前年比 -2.3名、年間平均稼働率78.7% 前年比 -4.0%

② 作業活動

作業活動による年間売上 8,231,772円 前年比 +2.9% (+233,501円)

利用者平均工賃 6,773円/月 前年比 +708円/月 40円/時 前年比 ±0円/時

〈ちいろば生活支援センター〉(特定相談支援)

本法人サービス利用者に限定しての実施に留まっている。

〈にぬふあ星〉(共同生活援助) 定員24名、現員 24名(3月末現在)

- ・にぬふあ星 定員6名 — 現員 6名 2月1名退居、3月1名入居
- ・エンゼルハウス 定員5名 — 現員 5名
- ・ユイマールⅠ 定員1名 — 現員 1名 ユイマールⅡのサテライト 3月末で閉所
- ・ユイマールⅡ 定員2名 — 現員 2名
- ・ひのぞう 定員6名 — 現員 6名
- ・すみれ荘 定員4名 — 現員 4名

【研修会等】

- ・初任者研修 2021年11月5日、2022年1月11日
- ・夏季法人研修 2021年9月18日 在日朝鮮人差別に学ぶⅢ
講師：多文化共生フォーラムなら 谷 敏光氏
- ・冬季法人研修 2022年1月15日 在日朝鮮人差別に学ぶⅣ
ビデオ鑑賞 「映画 焼肉ドラゴン」
- ・春季法人研修 新型コロナウイルス感染者発生により中止
- ・毎月1回職員勉強会 ちいろば園 : 毎月最終木曜日17:00~18:00
グループホーム : 毎月第4金曜日11:00~12:00

【苦情申立、虐待報告と事故・ヒヤリ報告】

1. 苦情申立て 利用者支援に関するご家族からの申し立て 2件
2. 虐待報告 当年度中に虐待と認定すべき事案は発生していません。
権利擁護委員会の開催状況 2021年6月21日、10月25日、2022年2月24日 年3回開催
3. 事故・ヒヤリ報告 利用者の所在不明 3件
PCR検査の検体採取時の不適切な支援によるミス 1件

2021年度計算書類

第一号第一様式

第二号第一様式

法人単位資金収支計算書

(自) 2021年 4月 1日 (至) 2022年 3月 31日

単位:円

勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収入			
就労支援事業収入	4,800,000	4,804,502	△ 4,502
障害福祉サービス等事業収入	190,196,000	178,915,100	11,280,900
その他の事業収入	500,000	490,925	9,075
借入金利息補助金収入	25,000	18,974	6,026
経常経費寄附金収入	220,000	411,500	△ 191,500
受取利息配当金収入	9,000	2,209	6,791
その他の収入	1,180,000	1,105,820	74,180
事業活動収入計(1)	196,930,000	185,749,030	11,180,970
事業活動による支出			
人件費支出	144,344,000	133,413,124	10,930,876
事業費支出	18,925,000	17,060,052	1,864,948
事務費支出	21,858,000	20,157,809	1,700,191
就労支援事業支出	8,636,000	8,221,517	414,483
支払利息支出	302,000	276,018	25,982
その他の支出	496,000	461,450	34,550
事業活動支出計(2)	194,561,000	179,589,970	14,971,030
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	2,369,000	6,159,060	△ 3,790,060
施設整備等による収入			
施設整備等収入計(4)	0	0	0
施設整備等による支出			
設備資金借入金元金償還支出	3,155,000	3,154,000	1,000
固定資産取得支出	235,000	231,000	4,000
施設整備等支出計(5)	3,390,000	3,385,000	5,000
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 3,390,000	△ 3,385,000	△ 5,000
その他の活動による収入			
その他の活動収入計(7)	0	0	0
その他の活動による支出			
積立資産支出	3,000	802	2,198
その他の活動支出計(8)	3,000	802	2,198
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 3,000	△ 802	△ 2,198
予備費支出(10)	0	—	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 1,024,000	2,773,258	△ 3,797,258
前期末支払資金残高(12)	117,409,811	117,409,811	0
当期末支払資金残高(11)+(12)	116,385,811	120,183,069	△ 3,797,258

法人単位事業活動計算書

(自) 2021年 4月 1日 (至) 2022年 3月 31日

単位:円

勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス収入			
就労支援事業収益	4,804,502	4,955,941	△ 151,439
障害福祉サービス等事業収益	178,915,100	174,271,931	4,643,169
その他の事業収益	490,925	0	490,925
経常経費寄附金収益	411,500	335,500	76,000
サービス活動収益計(1)	184,622,027	179,563,372	5,058,655
サービス活動増減の部			
人件費	133,568,142	126,869,121	6,699,021
事業費	17,060,052	15,395,404	1,664,648
事務費	20,157,809	15,858,389	4,299,420
就労支援事業費用	8,231,772	7,998,271	233,501
減価償却費	19,375,138	17,832,406	1,542,732
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 3,819,476	△ 3,882,200	62,724
サービス活動費用計(2)	194,573,437	180,071,391	14,502,046
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△ 9,951,410	△ 508,019	△ 9,443,391
サービス収入			
借入金利息補助金収益	18,974	25,300	△ 6,326
受取利息配当金収益	2,209	7,421	△ 5,212
その他のサービス活動外収益	1,105,820	974,442	131,378
サービス活動外収益計(4)	1,127,003	1,007,163	119,840
サービス活動外増減の部			
支払利息	276,018	69,000	207,018
その他のサービス活動外費用	461,450	440,250	21,200
サービス活動外費用計(5)	737,468	509,250	228,218
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	389,535	497,913	△ 108,378
経常増減差額(7)=(3)+(6)	△ 9,561,875	△ 10,106	△ 9,551,769
特別増減の部			
施設整備等補助金収益	0	390,500	△ 390,500
特別収益計(8)	0	390,500	△ 390,500
特別増減の部			
固定資産売却損・処分損	30,000	1	29,999
国庫補助金等特別積立金積立額	0	390,500	△ 390,500
特別費用計(9)	30,000	390,501	△ 360,501
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 30,000	△ 1	△ 29,999
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 9,591,875	△ 10,107	△ 9,581,768
前期繰越活動増減差額(12)	192,818,134	169,867,004	22,951,130
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	183,225,259	169,856,897	13,368,362
基本金取崩額(14)	0	0	0
その他の積立金取崩額(15)	0	22,965,839	△ 22,965,839
その他の積立金積立額(16)	594	4,602	△ 4,008
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	183,225,665	192,818,134	△ 9,592,469

第三号第一様式

法人単位貸借対照表

2022年3月31日現在

単位:円

資産の部			負債の部				
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	136,174,978	130,496,576	5,678,402	流動負債	23,940,922	21,571,655	2,369,267
現金預金	109,332,010	101,503,166	7,828,844	事業未払金	15,812,470	12,888,172	2,924,298
有価証券	10,000	10,000	0	1年以内返済予定設備資金借入金	3,154,000	3,154,000	0
事業未収金	25,938,241	27,856,836	△ 1,918,595	預り金	2,042	11,996	△ 9,954
原材料	41,921	52,176	△ 10,255	職員預り金	135,476	134,421	1,055
立替金	3,312	3,112	200	賞与引当金	4,836,934	5,383,066	△ 546,132
前払金	849,494	1,071,286	△ 221,792	固定負債	30,956,880	33,409,730	△ 2,452,850
固定資産	345,472,044	364,645,380	△ 19,173,336	設備資金借入金	17,142,000	20,296,000	△ 3,154,000
基本財産	269,372,590	236,268,885	33,103,705	退職給付引当金	13,814,880	13,113,730	701,150
土地	55,507,479	48,887,479	6,620,000	負債の部合計	54,897,802	54,981,385	△ 83,583
建物	213,865,111	187,381,406	26,483,705				
その他の固定資産	76,099,454	128,376,495	△ 52,277,041				
土地	25,443,071	32,063,071	△ 6,620,000				
建物	1,343,160	44,704,135	△ 43,360,975	純資産の部			
構築物	2,264,835	2,480,936	△ 216,101	基本金	143,697,930	143,697,930	0
機械及び装置	331,934	380,051	△ 48,117	国庫補助金等特別積立金	69,644,448	73,463,924	△ 3,819,476
車輜運搬具	7	7	0	その他の積立金	30,181,177	30,180,583	594
器具及び備品	4,501,054	6,336,364	△ 1,835,310	工賃変動積立金	124,569	124,569	0
権利	1,535,587	1,732,927	△ 197,340	人件費積立金	5,506,190	5,506,080	110
工賃変動積立資産	124,569	124,569	0	施設・設備整備積立金	24,550,418	24,549,934	484
人件費積立資産	5,506,190	5,506,080	110	次期繰越活動増減差額	183,225,665	192,818,134	△ 9,592,469
退職積立資産	10,498,629	10,498,421	208	(うち当期活動増減差額)	△ 9,591,875	△ 10,107	△ 9,581,768
施設・設備整備積立資産	24,550,418	24,549,934	484	純資産の部合計	426,749,220	440,160,571	△ 13,411,351
資産の部合計	481,647,022	495,141,956	△ 13,494,934	負債及び純資産の部合計	481,647,022	495,141,956	△ 13,494,934

※ 紙面の都合上、事業報告は簡略版、計算書類は上記の三種のみを掲載しています。

事業報告の全文、すべての計算書類、財産目録は本法人ホームページで公開しています。

ホームページアドレスは、 <https://www.chiiroba.or.jp> 【情報公開】よりご覧ください。

「地域生活を支える取り組みについて」

グループホーム職員 辰己浩規

まず、地域で暮らすとはどういうことなのか、いろいろ調べ私なりに考えてみました。

私たちは社会という人のつながりの中で生きており、住み慣れた地域社会の中で家族・近隣の人々・友人・知人などの社会関係を保ち、自らの能力を最大限発揮し誰もが自分らしく誇りをもって、地域の一員として普通の生活・暮らしを送ることが地域で暮らす、という事なのかなと思います。

では、ちいろば会のグループホームではどんな取り組みをおこなっているか紹介します。

ゴミ出しについて

明日は何のゴミを出すのか、また当番表を作りいつ、誰が出すのか見てわかるようにしています。利用者の方には『明日〇〇のゴミ出しをお願いします。』と伝え、次の日の朝自治会のゴミ捨て場に行ってもらいます。一人で行ける人もいれば支援者と一緒に行く人もいます。視覚的にわかるような物を用意してからは利用者の方も『今度、俺当番やな』とか『△曜日誰やで』など利用者同士でも話されているのを聞くようになりました。たまに『～～さん捨てに行っていない』と聞くこともあります。が、少しずつでも自分たちが暮らす地域のゴミの日を意識してもらう事は地域の一員として重要な事だと思えます。



買い物について

グループホーム『にぬふあ星』では近くのコンビニ等にお昼ご飯やおやつを買いに行く事があります。利用者の皆さんも買い物に行くのが好きで何を買おうか楽しみにされています。コロナ禍であまり『楽しみ』を見いだせてなかったで先日焼肉パーティーをしました。写真はその時スーパーに買い出しに行った時のものです。感染対策をし、事前に皆で話し合っ決めて食材を探し『このタレにしよう』『こっちの肉がいい』『カルビは?』など。少し他のお客様の邪魔をしたかもしれませんが楽しく買い物する事が出来ました。



二つの事を紹介しましたが、積極的に外に出て利用者の方の存在を知ってもらう事、社会と関わりをもてるようにと、日頃から意識して取り組んでいます。外に出ることは他者に迷惑をかけたり、いろんな困り事があったりします。だからといって家にこもるのではなく、利用者の方には社会でのマナーやルールを伝え、また社会には障害のある方が『こういう事で困っているのだ』という事をしっかり説明・発信していく事が支援者の役割だと思っています。

これからも利用者本人の希望する場所で本人にあった暮らし、地域の一員として普通の生活・暮らしを支えていけるよう取り組んでいきたいです。

— 6月11日 『ニジノキセキ』 上映会報告 —

ちいろば園職員 阪口 寿久

「あらゆる差別のない社会を実現する為に、人権問題をテーマとした映画を鑑賞し学ぶ」という目的でウリハッキョ（私たちの学校）をテーマに制作された『ニジノキセキ』を鑑賞した。その後の交流会では、映画のプロデューサーから制作にあたって熱い想い（下記参照）をお聞きすることができた。はじめて参加された外国にルーツのある方からは、「自分たちのルーツを大事にし 幼いわが子へ期待をよせて三郷町に引っ越してきた。上映会の趣旨を理解し参加した。今後もちいろば園に期待したい」という願いも語られた。他の参加者からも、自分のことと重ね合わせて、「キラキラした若者の瞳を見て元気が出てきた。私もがんばります」といった意見も出された。

●『ニジノキセキ - 「4.24」の未来へ、七色の架け橋-』映画紹介（パンフレットより引用）

在日コリアンが通う朝鮮学校のドキュメンタリー映画。日本で生まれ育った在日コリアンが通う朝鮮学校は近年、ヘイトスピーチや北朝鮮バッシングの的になり、国や行政からも財政的圧迫を受けるなど、取り巻く環境が厳しくなっている。そんな現実には在日コリアンたちは何を思うのか。朝鮮学校の現役教師らに密着し、その胸中や朝鮮学校の未来像に迫っていく。撮影には、兵庫県下の朝鮮学校が全面協力し、メディアでは公開されていない朝鮮学校の日常生活を映し出した。また、朝鮮学校の歴史を語る上で欠くことのできない、1948年に起こった「4.24 阪神教育闘争」についても当事者などに取材して取り上げるなど、朝鮮学校にまつわる過去・現在・未来を描いていく映画である。

映画のいう「キセキ」には、世代を超えて民族教育を受け継ぎ発展させてきた「軌跡」、あらゆる試練に打ち勝ち、今もなお誇り高くウリハッキョが存在している「奇跡」、ダイヤモンドの原石のようにウリハッキョに通う子どもたちのきらきらと輝く未来としての「輝石」という3つの意味が込められている。

— 映画を通し考えたこと、学んだ事 —

☆ハッキョを守ることは、自分の命がどこから来てどこへ繋がっているのかを知ること。「当たり前の権利」を守ることなのである。

☆生き生き・キラキラと輝き青春に汗を流す。そんな当たり前を守るために高校生たちがヘイトスピーチに向き合い「私たちは決して負けません。決して逃げません。先代たちが守り抜いた朝鮮学校を次は僕たちが守りぬきます。」と自分の怒りを抑えて語る姿に胸を打たれた。

☆日本社会における不当な差別のほとんどがウリハッキョに、子どもたちに向けられている。高校無償化・補助金問題、ヘイトクライムなど、日本政府による政治的弾圧と社会における不当な差別の中、さまざまな形でウリハッキョを守り続ける人々の姿に胸が熱くなった。

☆70年前、命をかけて学校を作った。「こんなに厳しい世の中でもしっかりと生きてほしい」という願いを込めてウリハッキョができた。子どもたちに自分たちのような苦しい思いをさせまいと願った親の想いを知った。

☆重い歴史だけではなく現在の朝鮮学校の姿・未来に目を向けていた。

☆学校での子どもたちの純粋で明るく元気な様子、高校生のダンス等一つ一つがキラキラと輝いていた。

胸をはって堂々と自分の想い・夢を語る姿に感動すると共に、70年の歴史と自分たちが抱えてきた問題を多くの人に知ってほしいという気持ちがひしひしと伝わってきた。

☆始めて知ったことが多くこの学びを発信し広げていくことの大事さを痛感した。

☆「明日からまたがんばろう」という元気をいただいた。（私も虹の架け橋をかける一人になりたい）

★後援会費・ちいろばだより年間購読料 (2022年4月1日～2022年5月31日)

篠原範子、胡内まさみ、藤田伸子、廣野和子、岩崎和代、鈴木莉子、松本健一、浅井克哉、岡本啓子、久世泰詩、岡林千恵子、篠原希代子、木村和子、濱野由利子、清水靖子、常盤紘子、足立拓矢・るり、片桐滋・文子、大江耕平、益田典幸、松村園美、北飯史子、後藤弥生、梅谷明子、富田久江、高岡哲也、由良禮子、なないろサーカス団、橋本勝寿、富田忠一、新宮由士、井上啓樹、和田泰子、笠井草太、玉野康二郎、野呂千代子、阪口寿久、磯道香織、奥田陽子、辰己真奈美、米田守、梅垣千代子、内勢昌博、岩崎真滋、辰己浩規、窪美代子、加地まさ子、秀田真希、忠澤美緒、高橋沙耶香、信野靖子、松木見知雄・ひろみ
以上 敬称は略させていただきます。

ちいろばだより 246号に挟み込んだ購読料納入のための振込用紙の口座番号に冒頭の0が一つ欠けていました。振込時ATM等で振込ができずご迷惑をおかけしたことをお詫びします。

二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行



しんはつばい
新発売!



ぶるーべりーくっきー200 えん

—ちいろばまつりについて—

毎年、9月第2土曜に開催している「ちいろばまつり」については、8月上旬の時点での新型コロナウイルスの感染拡大状況で開催の是非を決定したいと考えています。

8月中旬には、開催の是非、開催する場合の開催方法等の詳細を決定し、本法人ホームページにて、ご案内させていただきます。

よろしくおねがいします。 URL/ <https://www.chiiroba.or.jp>



KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会 年6回 頒価 50円
連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14
TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924
発行人／ 関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F